

がっこうせいかつ 学校生活のきまり

小学校は、各教科での学びを通して、①日常生活に必要な各般の能力 ②社会生活を営むため必要な資質・能力の基礎 ③自分の個性を発見する素地

以上 3 点を身に付け、養っていく場です。（文部科学省 初等中等教育の役割より）

以下の項目には、「ルール」と「マナー」が混在しています。どちらも集団生活をしていくうえで大切です。また、「宇佐美小児童が安全に、そして安心して学習に取り組むことができるように」、「一人ひとりが気持ちよく生活できる環境となるように」という視点で各項目を設けています。

ここに、決まりのすべてが網羅されているわけではありません。ここに載っていないことについては、

「皆が安全に、そして安心して学習に取り組むことができるのか」、「一人ひとりが気持ちよく生活できる環境になっているか」「学習に必要なものか」この視点に沿って考えてほしいです。

学校・家庭・地域で共通理解を図りながらより良い学校を築いていきたいです。ご理解とご協力をお願いします。

なお、◎のものについては、市内統一事項となります。

学校生活について	理由やねらい
● きもち 気持ちのよいあいさつをこころがける。	あいさつとは自分の心 じぶん こころ ひら が開いていることを伝え、目の前 つた め まえ にいる相手 あいて みと を認め、よい印象 いんしょう あた を与える行為 こうい です。あいさつができると、人間関係 にんげんかんけい もスムーズになり自分の意見 じぶん いけん も言いやすくなるので、大切 たいせつ にしています。
● なまえ 名前には「～さん」をつけて呼 よ ぶ。	呼 よ び方一つで相手 かたひと あいて をいやな気持ち きもち にさせることもあります。また、「さん付け づ 」をすることで、相手 あいて を尊重 そんちよう する気持ち きもち を身 み に付けていきましょう。
● ももの 持ち物には名前 なまえ を記入 きにゆう する。 ※上 うわ ばきなどにもしっかり名前 なまえ を書く か	なくしても、名前 なまえ が書いてあればかえってくる可能性 かのうせい が高まります。また、自分のもの じぶん を大事 だいじ にあつかえるようにしてほしいという願 ねが いも込められています。
●校内 こうない では、左 ひだり 胸 おね の見える位置 み いち に名札 なふだ をつける。 ※名札 なふだ は学校 がっこう で管理 かんり しています。	他学年 た がくねん の児童 じどう の名前 なまえ を知ることができ、たてわり活動 かつどう などでコミュニケーション と を取りやすくなります。
● やす 休み時間 じかん や移動教室 いどう きようしつどう 等で教室 きようしつ を空 あ けるとときには机 つくえ の上 うへ に物 もの を置 お いておかない。	物 もの がなくなったり、いたずらされたり壊れたりするのを未然 みぜん に防 ふせ ぐためです。また自分 じぶん の物 もの を管理 かんり する習慣 しゅうかん を身 み に付けてほしいからです。

●机 つくえ の横 よこ には物 もの をかけない	かけてあるものに引 ひ っかかって物 もの が壊 こわ れたり、怪我 けが をしたりしないようにするためです。机 つくえ の横 よこ に物 もの がかかっていると、学 がく 習 しゅう に集中する雰 ふん 囲 い 気 き を作 つく りにくくなってしまうです。
●登下校 とうげこう の時 じ 刻 こく を守 まも る。	8：05までに教 きょう 室 しつ に入 はい っていないと遅 ち 刻 こく になっってしまうです。時 じ 間 かん に間 ま に合 あ うように寝 ね る時 じ 間 かん 、起 お き き る時 じ 間 かん 、支 した 度 く の時 じ 間 かん など を調 ちょう 整 せい できるよ う に し て ほ しいです。
●友 とも 達 だち を待 ま つときは、児 じ 童 どう 玄 げん 関 かん で落 お ち着 つ いて待 ま つ。	他学 たがく 年 ねん は授 じゅ 業 ぎょう をしてい ま す。また、先 せん 生 せい の目 め が届 とど かないた め 、けがの危 き 険 けん もあ り ま す 。玄 げん 関 かん には遊 あそ び道 どう 具 ぐ が置 お いてあ り ま す が、 使 つか わ ず に落 お ち着 つ いて待 ま っ て い ま し よ う。
●家 か 庭 てい で決 き めた通 つう 学 がく 路 ろ を守 まも り、登下校 とうげこう をす る 。で き るだけ一 ひとり 人 にん では帰 かえ ら な い。	い つ も違 ちが う道 みち で登下校 とうげこう して い ると、登下校中 とうげこうちゅう に何 なに かあ つ たとき に 、探 さが しに く な っ て し ま う た め 、決 き めた通 つう 学 がく 路 ろ を必 かな らずつか い ま し よ う 。
●登校後 とうこうご 、下校時 げこう 刻 じこく まで学 がく 校 こう の外 そと へ出 で ない。※授業等 じゅぎょうとう は除 のぞ く。	安 あん 全 ぜん 上 じょう 、事 じ 故 こ にあ わ な い よ う に す るた め です。ど う し て も授業 じゅぎょう に必 ひつ 要 よう な物 もの を忘 わす れてし ま った場 ば 合 あい は、先 せん 生 せい にす ぐ 話 は しまし よ う。 う。忘 わす れ物 もの がな い よ う に、前 ぜん 日 じつ か ら 持 も ち物 もの の確 かく 認 にん や予 よ 定 てい 帳 ちやう の記 き 入 にゅう をし っ か り し て い き ま し よ う 。
●固 こ 定 てい 遊 ゆう 具 ぐ の う しろ ろ の か だ ん は、先 せん 生 せい の許 きょ 可 か を え て入 はい る。	段 だん 差 さ とな っ てお り 危 き 険 けん だか ら です。
◎ラ ら נד נד セル セル 、ふ ふ で で 箱 はこ な ど に きー ホル ホル ダー ダー 類 るい は付 つ け ず 、お守 まも りはカバ なか ン なか の中 なか に し ま う 。 ※防犯用品 ぼうはんようひん （ブザ ブ ー ザー な ど ）は付 つ けても よ い。	キーホルダーは、学 がく 習 しゅう に必 ひつ 要 よう のな い 物 もの です。ぬいぐるみ の よ う な筆 ふで 箱 ばこ を使 つか っ て い る 人 ひと が み ら れ ま す 。これら の 物 もの は、な く な っ てし ま った り 壊 こわ れたりし た とき に 、自 じ 分 ぶん が嫌 いや な思 おも いをしてし ま う の で、持 も っ て こ な いよ う に し ま し よ う 。
◎携 け い たい 電 でん 話 わ は持 も ち込 こ み禁 きん 止 し 。	学 がく 習 しゅう に必 ひつ 要 よう のな い 物 もの は不 ふ 要 よう 物 ぶつ です。伊 い 東 とう 市 し の小中 しょうちゅう 学 がく 校 こう で共 きょう 通 つう のル ル ール ル です。
◎学 がく 習 しゅう や運 うん 動 どう な ど 学 がく 校 こう で の 活 かつ 動 どう に必 ひつ 要 よう のな い 物 もの は持 も っ て こ な いよ う に し ま し よ う 。 う。	学 がく 習 しゅう に必 ひつ 要 よう のな い 物 もの を持 も っ て き て し ま う と 、壊 こわ れたり、な く し た り、思 おも わぬトラ げん ブル いん の原 げん 因 いん とな る こ と もあ り ま す 。
◎お金 かね な ど の貴重品 きちゅうひん は、持 も っ て こ な いよ う に し ま し よ う 。	不 ふ 要 よう 品 ひん 同 どう 様 よう 、トラ げん ブル いん の原 げん 因 いん とな る こ と があ り ま す 。
◎水筒 すいとう の中身 なかみ は、水 みず 、お茶 ちや 、ス ス ポ ポ ー ー ツ ツ ド ド リ リ ン ン ク ク のど ど れ れ か に に し ま し よ う 。	水 すい 分 ぶん 補 ほ 給 きゅう が目 もく 的 てき です。熱中 ねっちゅう 症 しょう 対 たい 策 さく や風邪 かぜ 予 よ 防 ぼう として適 てき した物 もの を持 も っ て く る よ う に し ま し よ う 。

服装・身なりについて	理由やねらい
●活動しやすい服装を心がける。また靴も、運動しやすい、学校生活に適したものを履く。 ◎運動の際は体育着を着用し、赤白帽子をかぶる	ぼうはん あんぜんめん はいりよ ふくそう いしき 防犯、安全面を配慮した服装を意識することで、あんぜん げんき がっこうせいかつ おく 安全に元気よく学校生活を送ってほしいからです。 はだ ろしゅつ おお たいせい したぎ み 肌の露出が多い、体勢によって下着が見えてしまう、からだ のサイズに適していない、手が隠れてしまう、チェーンなどの そうしよくひん 装飾品 がついている等の服装は避けましょう。
◎染色やパーマなど、頭髪を加工しない。また、眉も加工しないようにする。 ◎ピアス(透明なプラスチックも含む)、カラーコンタクト（黒色を含む）等のファッション性の高い装飾品は、登下校中も含め、学校内ではつけないようにする。	しょうがくせいだんかい かみ け かこう 小学生 段階で髪のを加工することは、けんこうじょう のリスクがあるという意見が多いです。 しゅうい じどう め 周囲の児童よりも目につきやすくなるので、がっこうがい しけん どう 学校外で事件等のトラブルに巻き込まれる可能性は増えます。いろ お どうはつ かこう 色落ちや頭髪を加工する ことで起こり得るリスク等については、かてい はな あ 家庭でよく話し合ってください。 まゆ 眉やピアスについても同様です。
●必要以上に大きな髪飾りはつけない。	うんどうじ きけん かわ 運動時に危険でない、華美でないことを基本とします。ぼうし かぶ 帽子を被るのに支障が出ないようなものを選びましょう。
●手首や足首にゴム紐やミサンガ、アクセサリー類をつけない。	かつどうちゅう ひ 活動中 にもものに引っかかってしまう恐れがあります。また、これらはがくしゅう ひつよう 学習 に必要のないものです。しゅうきょうじょうどう りゅう ちやくよう 宗教 上等 の理由で着用 する 必要のある場合はご連絡ください。
●登下校時は必ず帽子をかぶる。 （1，2年は黄色い帽子。3～6年は黄色帽子、自由帽子の中から選択） 自由帽子は①耳が隠れない②視界が遮られない③ツバのあるもの④華美でないもの	1，2年生はあんぜんめん こうりょ きいろ ぼうし ちやくよう 安全面を考慮して黄色い帽子を着用 します。3～6年は、きいろ ぼうし たよ こうつう いしき 黄色い帽子に頼らずとも交通ルールを意識していってほ しいです。それ以外に、いがい ねっちゅうしょうたいさく ぼうし ぼうし ちやくよう 熱中症 対策やけがの防止のために帽子を着用 します。デザイン性でなく、きのうせい せんたく 機能性で選択してほしいで す。
◎手袋・マフラー等の防寒具やネッククーラー等の防暑品は、持ってきててもよいが、玄関で着脱をする。（登下校時、ポケットに手を入れない。） ※室内で着ない上着（ベンチコートなど）は着ない。	こうない どうぐ もち 校内でそれらの道具を用いてふざけたり紛失したりしないように玄関で着脱 します。こうない どう おんど ちょうせつ 校内はエアコン等によって温度の調節は できており、たいさくひん しょう もんだい かんきょう 対策品を使用しなくても問題ない環境となっています。
●ハンドクリーム、リップクリーム等は、保護者が担任に連絡をしてから使用する。	がくしゅう ひつよう ふようぶつ て あ どう けんこうじょう ひつよう じどう 「学習 に必要のないもの」は不要物です。しかし、手荒れ等、健康上 で必要とする児童についてはがっこう れんらく 学校へご連絡ください。

学習環境について	理由やねらい
●授業前、黒板をきれいに消す。	学習環境を整えるためです。
●忘れ物があったときは、授業が始まる前までに先生に報告する。	学習時間を保証するためです。また、対処方法を身に付けるためにも必要だと考えています。
●授業の開始と終了時刻を守り、挨拶をする。 ●あいさつは、「起立 気をつけ お願いします（１・２・３で頭を上げる。）」とし、体を を静止させてから着席する。	学習規律を整えるためです。休み時間との切り替えにも必要です。
●机上の教科書・ノート・筆箱について置く位置が決まっている。	学習環境を整えるためです。
●筆箱の中身が決まっている。 鉛筆６本（１年生は５本でもよい）※キャップはチャック式の筆箱のみ使用可 消しゴム１個　　１５ｃｍ線引き（折りたたみでないもの） 赤青鉛筆１本　　ネームペン１本　　※鉛筆削りは持ってこない。 ３年生以上　色ボールペン可　　５年生以上　蛍光ペン利用可 ※シャープペンは使用しない。ただし、自然教室、修学旅行等の行事の際は、使用しても よいこととする。※鉛筆削りは持ってこない。	学習に必要なものを揃える習慣を身につけるためです。自分の持ち物をきちんと管理できるようにしたいと思います。 また、華美なものを持ってきてしまうと、落として壊したり、なくしたりして、嫌な思いをしてしまいます。
●授業中に席を離れたいときは、先生に言うこと。	安全のためです。所在確認にもつながります。
◎学校用タブレットは、授業、家庭学習、委員会活動、係活動など、学校に関係すること だけに使う。	学校で使っているタブレットは、学習で使うためのものです。

学校外の生活について	
●放課後にグラウンドで遊ぶ際、出したごみは必ず家に持ち帰る。	宇佐美小 児童だけの問題ではないですが、ごみが毎日グラウンドに落ちていました。今後も状況 が改善されない場合は、 グラウンド内での飲食 を禁止することも検討しています。
●放課後にグラウンドで遊ぶ際、自転車やスケートボードを使用してもよいが、グラウンドの中央 を走行しない。 ●スケートボードの使用は、体育館～職員室前のコンクリート部分に限る。	グラウンドにタイヤのあとが付き、グラウンドが荒れてしまい、授業 や休み時間中のケガにつながってしまいます。また、グラウンドで遊んでいる他の児童とぶつかることなく、事故やケガ無く遊んでほしいからです。
◎不審な人に声をかけられたり、危険を感じたりしたときは、大声で助けを求め、近くの家や「パンダの家」にかけこむ。寂しい場所や暗い場所になるべく行かないようにする。	
◎出かけるときは、「だれと」「どこへ」「何をしに行く」「何時に帰る」を必ず家の人に伝える。	
◎11月～2月は16：30までに、3月～10月は17：00までに家に帰っているようにする。	
◎子どもだけで友だちの家に泊まったりしない。また、保護者の承諾 を得ないで学区外に行かない。学区外は、「まるたつひものセンター」より伊東方面、城山キャンプ場上の国道より熱海方面です。	
◎交通ルールを守り、事故にあわないように気をつける。特に自転車に乗るときは、ヘルメットの着用 に努め、左側 通行を守り、無灯火や二人乗りはしない。	
◎道路や人混みの中など、禁止されている場所や危険な場所では、キックボードやスケートボードなどをしない。	
◎ゲームコーナー、カラオケボックス、ボウリング場 などへは、子どもだけで入らない。	
◎人や物を傷つける恐れのあるような危険なおもちゃは使わない（エアガン等）。また、踏切や線路の近く、消波ブロックで遊ぶなど、危険なことは絶対にしない。	
◎絶対にマッチやライターなどを持ち歩いたり、たき火などの火遊びをしたりしない。	
◎友だち同士でお金の貸し借りをしたり、物やカードの交換をしたり、ネット上のアイテム等のやりとりをしたりしない。	
◎公共 施設（学校、幼稚園、公園、コミセンなど）やお店の使い方を守り、管理している人や利用している人たちに迷惑をかけないようにする。	
◎用事がないのにスーパーやコンビニエンスストア、ショッピングセンターなどに入ったりしない。	
◎携帯電話（スマホ）や SNS、携帯ゲーム機などは、安全に正しく使い、個人情報 の流出 に注意する。	